



# 商工会議所LOBO(早期景気観測) —2014年6月調査結果(概要版・付帯調査)—

2014年6月30日

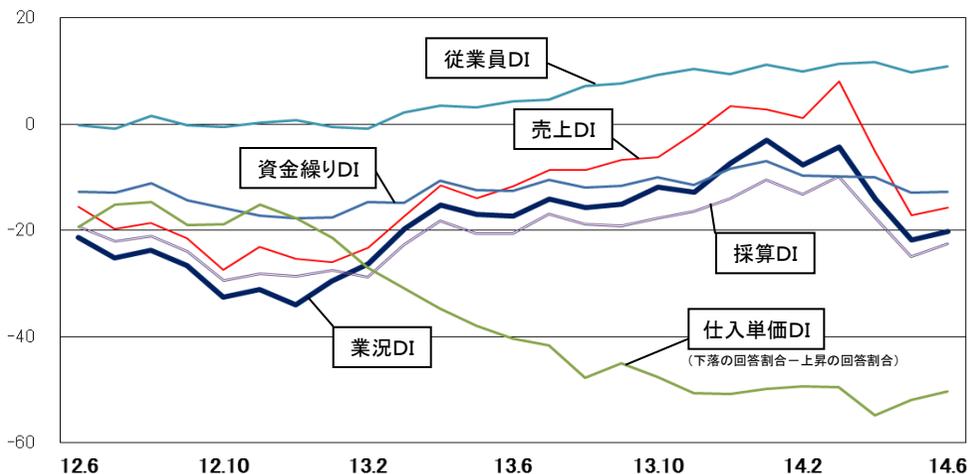
業況DIは、3カ月ぶりに改善。先行きは慎重な見方があるも、回復を見込む

## ポイント

▶6月の全産業合計の業況DIは、▲20.3と、前月から+1.5ポイントの改善。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であることに留意が必要。仕入コストや電力料金、人件費のコスト増が続くほか、人手不足に伴い、生産・営業活動の抑制などの影響が幅広い業種でみられる。他方、建設業や自動車関連の堅調な推移に加え、小売業でも、一部で駆け込み需要の反動減から回復しつつあるとの声が聞かれる。中小企業において、反動減からの回復の実感はやや地域、企業規模によって、まだ模様となっている

▶先行きについては、先行き見通しDIが▲16.4(今月比+3.9ポイント)と、改善を見込む。ただし、コスト増加分の価格転嫁や、人手不足に伴う影響が幅広い業種でみられていることなどから、先行きに対する不透明感は払拭されていない。他方で、賃上げなどを背景とする個人消費の下支えや、自動車をはじめとする製造業の本格的な生産回復への期待もあり、夏から秋頃に持ち直すとの見方が広がりつつある

LOBO全産業合計の各DIの推移(2012年6月以降)



## 2014年度の所定内賃金の動向

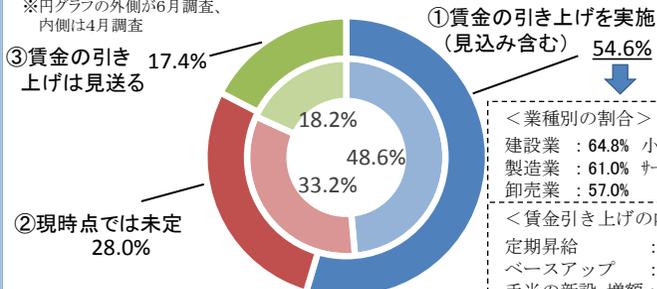
- ▶2014年度に賃金の引き上げを実施した企業(見込み含む)(全産業)は54.6%。4月調査の48.6%から6.0%増加し、半数を超えた。「現時点では未定」とする企業は28.0%
- ▶ベースアップを実施する理由(全産業)は、「人材の定着やモチベーション向上を図るため」(62.3%)が最も多く、「業績が改善しているため(見込み含む)」が32.5%で続く

## 【中小企業の声】

- ▶物価上昇、人手不足、賃上げに前向きな他社の動向といった現状を考慮すると、相当な賃上げをせざるを得ない (本庄 自動車向け等金属製品製造業)
- ▶業績は回復。7月に2~3%のベースアップを実施予定 (東京 フェルト加工販売業)
- ▶売上、採算面では賃上げを行える状況にないが、社員のモチベーション向上のため年内にベアを行う予定 (恵那 ホテル業)
- ▶今年のベースアップは見送ったが、今後、人材確保のためベアの必要性が高まると予想 (尼崎 運送業)
- ▶受注は堅調だが、建築資材やガソリン価格の上昇・高止まりが利益を圧迫。近隣の同業他社が賃上げを行ったという話もなく、当面は現状を維持する (朝倉 建築工事業)

## ◆2014年度の所定内賃金の動向(全産業)

※円グラフの外側が6月調査、内側は4月調査



①賃金の引き上げを実施(見込み含む) 54.6%

<業種別の割合>  
建設業 : 64.8% 小売業 : 44.4%  
製造業 : 61.0% サービス業 : 48.7%  
卸売業 : 57.0%

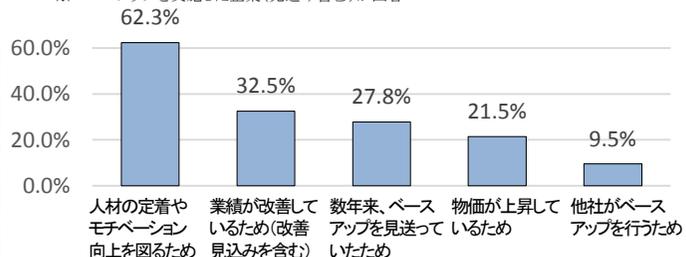
<賃金引き上げの内容>  
定期昇給 : 73.8%  
ベースアップ : 33.5%  
手当の新設・増額 : 12.8%

※賃金の引き上げを実施した企業(見込み含む)が対象、複数回答

## ◆ベースアップを実施する理由(全産業)

※ベースアップを実施した企業(見込み含む)が回答

【複数回答】



## (参考) 前年と比較した一時金の水準(全産業)

